

多様な森林づくりの見える化プロジェクト

- ◆ 「国有林野の管理経営に関する基本計画」において、国有林では、生物多様性の保全など公益的機能の一層の発揮の観点から、多様な森林づくりを推進することとしており、「森林・林業基本計画」においては、国有林は育成複層林化等の取組を先導的に進めることとしております。
- ◆ 国有林では、これまで、多様な森林づくりを進めるため、自然条件・社会的条件を踏まえた将来の目標林型（育成単層林、育成複層林、天然生林）とそれへ向けた適切な施業方法について、地域ごとの実情に応じた検討を行っていますが、必ずしも実績の多くない育成複層林施業や、天然力を活用して確実に次世代の森林を成立させる森林づくりについては、施業に伴うコストに加え、技術的な検証を継続して積み重ねる必要があります。
- ◆ このため、各森林管理局の管内に多様な森林づくりを進めるための課題や改善策等を検討する「見える化」区域を設定し、多様な森林づくりを実践することとしました（見える化プロジェクト）。
- ◆ 九州森林管理局では大分森林管理署管内の国有林に「見える化」区域を設定し、検討を進めています。

育成複層林（誘導存置型）



- ・ 針広混交林を維持
(既に針広混交林化しているような場合) (急傾斜・生産力低・道から遠い)

育成複層林（循環利用型）

- ・ 複層伐+人工造林(天然更新)
(急傾斜・生産力低・道から近い)
(中傾斜・生産力中・道から近い)



育成単層林（人工林）

- ・ 通常伐期(皆伐)+人工造林
(緩傾斜・生産力高・道から近い)



育成単層林（人工林）

- ・ 長伐期(皆伐)+人工造林
(中傾斜・生産力中・道から遠い)



育成複層林（誘導存置型）

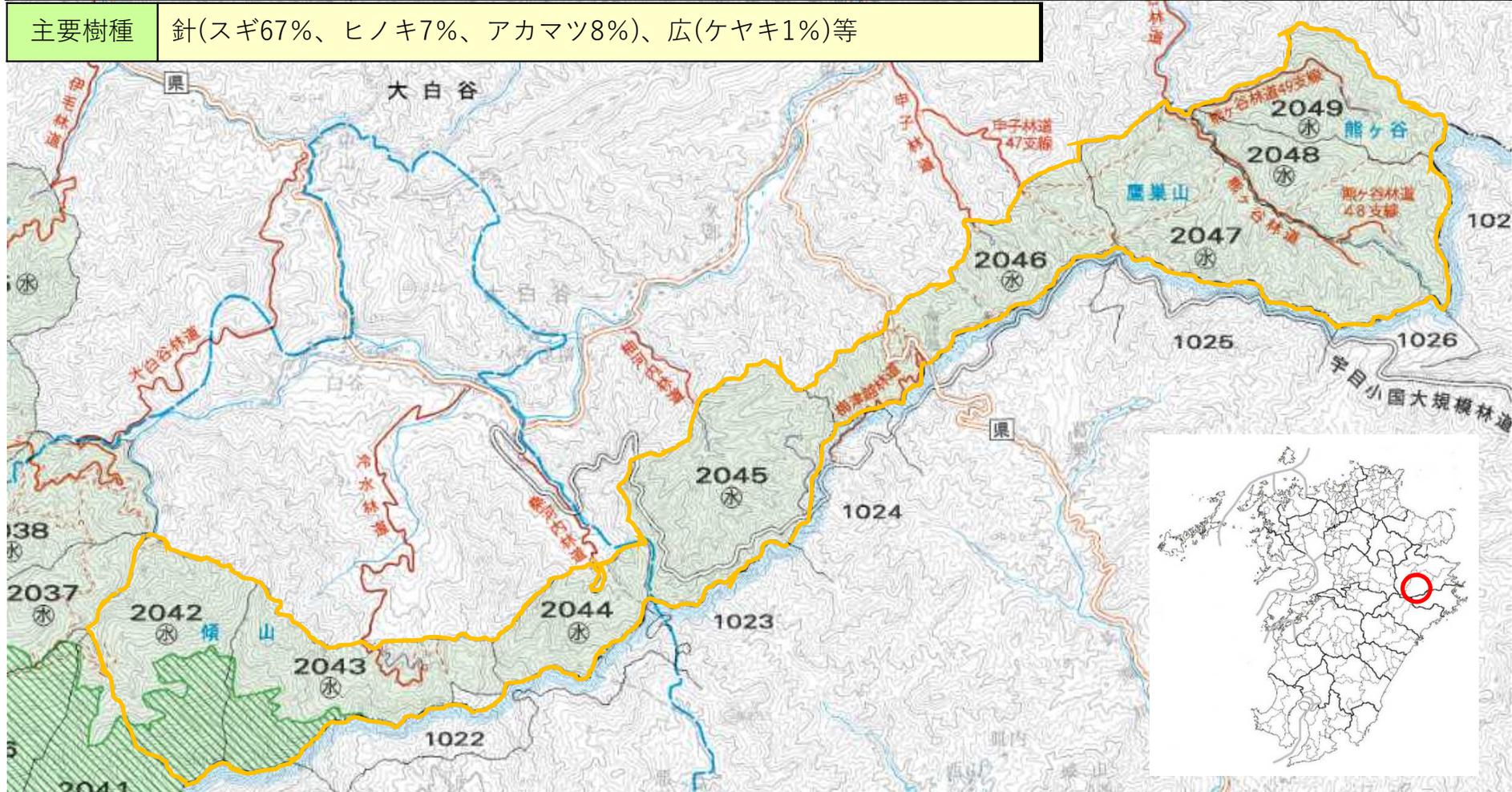
- ・ 間伐の繰り返し
・ 択伐+天然更新
(急傾斜・生産力低・道から遠い)



位置図

国有林名・林班 (所在県・市町村)	傾山・鷹巣山・熊ヶ谷国有林 2042～2049林班 (大分県豊後大野市)	区域面積	1,020ha 区域 
----------------------	--	------	---

主要樹種	針(スギ67%、ヒノキ7%、アカマツ8%)、広(ケヤキ1%)等
------	---------------------------------



■指向する森林への誘導の考え方

育成単層林647ha→263ha

〔皆伐で伐採し、単一の樹冠層を構成する森林として人為により成立・維持される森林〕



- 皆伐面積の縮小・分散や長伐期化、植栽による確実な更新で、伐採に伴う裸地化を軽減
- 自然条件等に応じて択伐や帯状又は群状の伐採等により複層林化を図る
- 希少な生物が生育・生息する森林は、必要に応じて、天然力を活用し、針広混交の育成複層林又は天然生林に誘導

育成複層林47ha→431ha

〔帯状や群状等で伐採し、複数の樹冠層を構成する森林として人為により成立・維持される森林〕



- 現況が育成複層林の森林は、引き続き育成複層林として維持

天然生林317ha→317ha

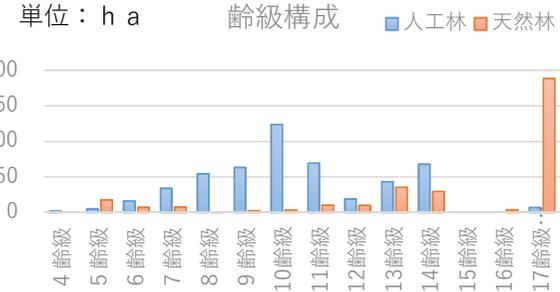
〔主として天然力により成立・維持される森林〕



- 原生的な森林生態系や希少な生物が生育・生息する森林は、自然の推移に委ねることを基本に天然生林として維持し、必要に応じて植生の復元を図る

※1 指向する森林の面積については、今後の調査・検討により変更する場合がある。
 ※2 「●」は現状の林種区分を維持するもの、「□」は別の林種区分に誘導するもの。
 【資料】令和2年10月12日開催の林政審議会資料より抜粋・一部修正。

現況



指向する森林

現況

育成単層林	647ha
育成複層林	47ha
天然生林	317ha

将来構想

育成単層林	263ha
育成複層林	431ha
〔循環利用型〕	265ha
〔誘導存置型〕	166ha
天然生林	317ha

施業方法の見直し

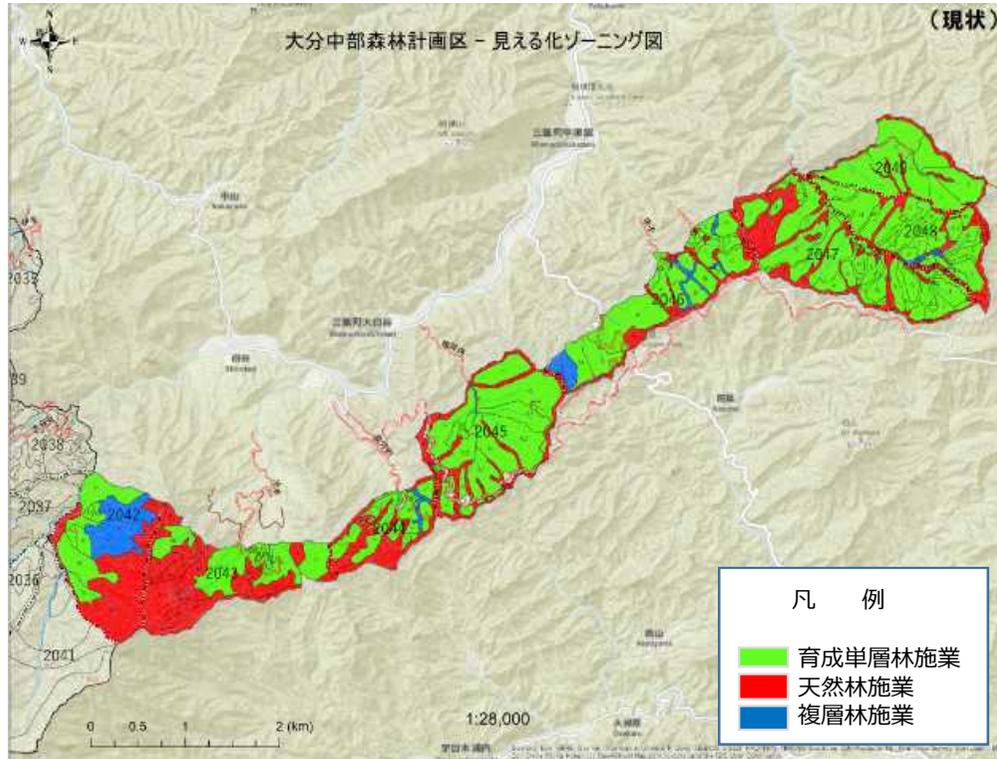
現況

通常伐期施業群	71ha
長伐期施業群	696ha
複層林施業群	0ha
天然林・その他施業群	245ha

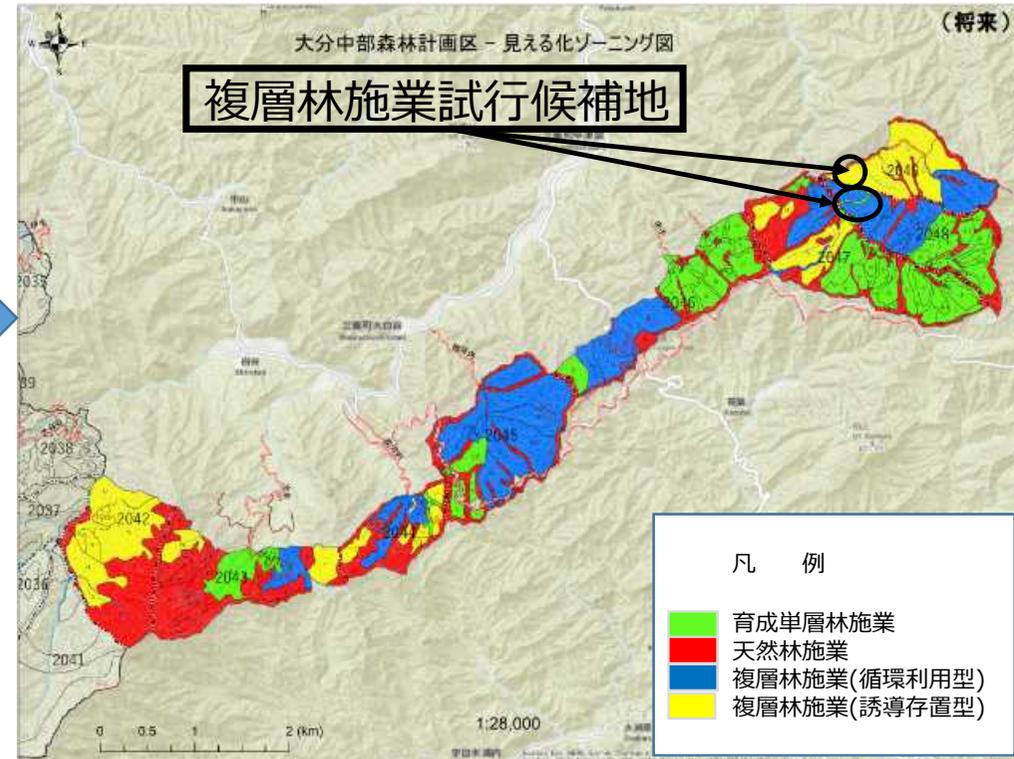
将来構想

通常伐期施業群	33ha
長伐期施業群	302ha
複層林施業群	431ha
天然林・その他施業群	245ha

現況



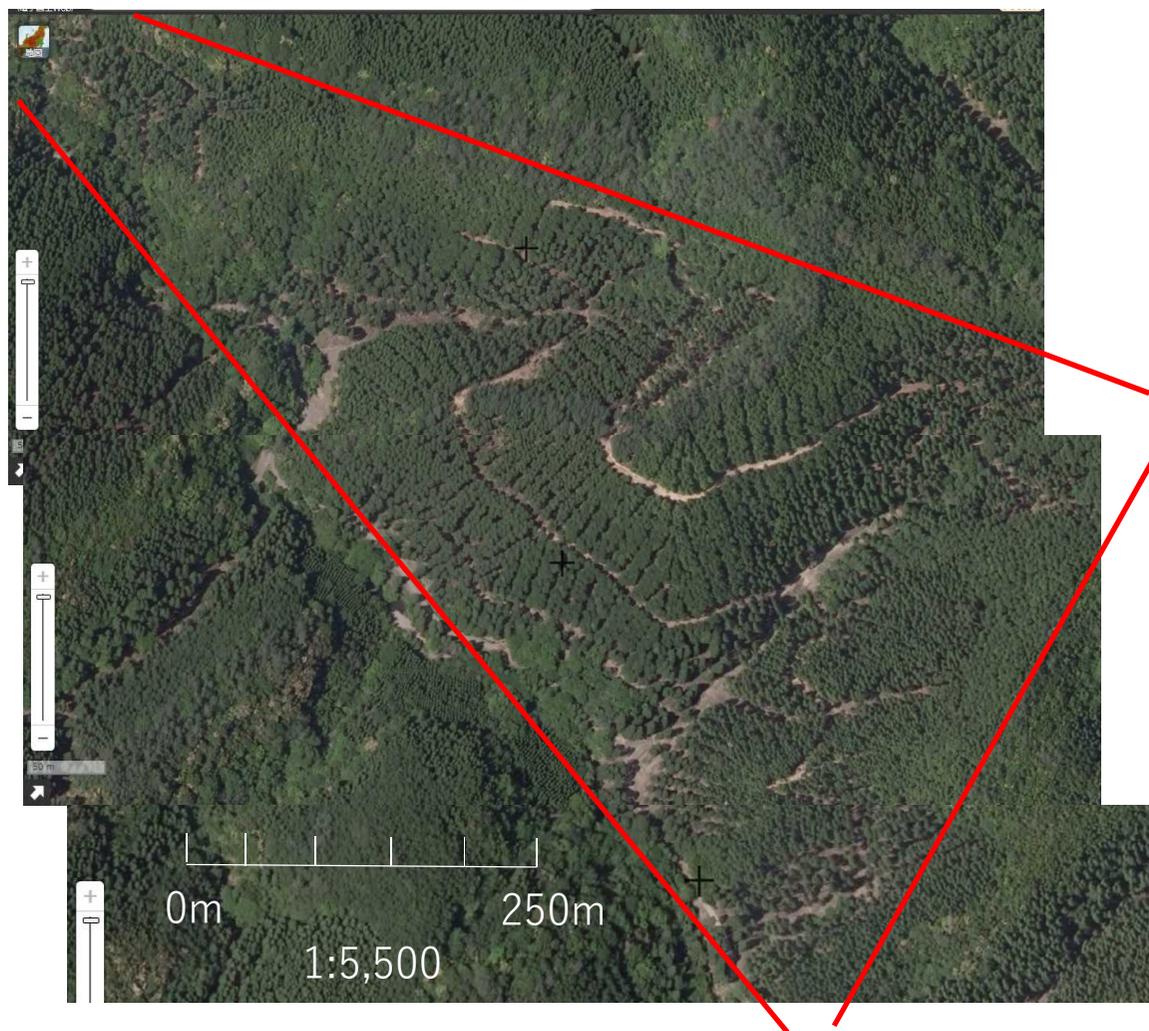
将来構想



複層林施業（誘導存置型）試行候補地



複層林施業（循環利用型）試行候補地



現地検討会の様子（令和3年7月開催）



意見交換（大分森林管理署内）



複層林施業（誘導存置型）試行予定地